

## 加太小に残る戦争の証

### 忠魂碑

「みんなの森」の奥に加太小学校の校舎を見守るように忠魂碑が建っています。これは、徴兵され命を落とされた加太地区の方の慰霊碑です。

忠魂碑の裏側には、「日露戦争7柱 大東亜戦争82柱」と記され、89名の戦没者の名前が刻まれています。戦争のない平和な世の中がいつまでも続くことの感謝と願いが込められています。



### 学校沿革誌に残っている記録

昭和15年度毎月1日 興亜奉公日行事实施（注1）

昭和16年度4月1日 加太村国民学校と改称。太平洋戦争勃発以来 毎月8日大詔奉戴日行事实施（注2）心身鍛錬的行事实施。

昭和17年度 寺院参詣を毎月実施。

昭和22年1月 戦時中防空の為、取りはずしてあった天井板を張り替る。

※ 戦時体制が進んでいく中、教育も戦時色が濃厚になっていきました。1941年（昭和16年）、国民学校令が出され、加太村尋常小学校は加太村国民学校に名称が変わりました。国民学校は、国民の基礎的錬成をなす学校とされ、心身を鍛きたえ、国のため天皇のために身を捧ささげることが求められました。子どもたちは将来の戦争の担手であるため、学校では軍国主義教育が推し進められ、儀式や学校行事、団体訓練が重視されました。（参照：広島平和記念館 企画展「こどもたちが見た戦争」資料

注1：毎月1日 飲食店での飲酒を禁止したり食事を1汁1菜としたりするなど国民生活を制限しました。

子どもたちの弁当は、白いご飯に梅干しを入れた日の丸弁当でした。

注2：興亜奉公日行事よりも一層戦時色の強い行事でした。毎月8日は、学校では、国旗掲揚や御真影の奉拝や分列行進、皇居遥拝なども行われました。